

公益社団法人日本語教育学会 日本語教育グローバル人材奨励プログラム
2022 年度応募要項

日本語教育グローバル人材奨励プログラムとは

日本国内の日本語教育分野の若手研究者・実践者（個人もしくはグループ）が海外の日本語教育現場の協力者とともに、対面、もしくはオンラインで各種活動を行う際の費用の一部または全額を助成するプログラムです。

本プログラムの目的

海外の日本語教育の現状を知り、そこで活動する関係者とのネットワークを構築することを通して、グローバルな視点で協働的实践や研究ができる人材を育成することです。

本プログラムの趣旨

海外と深い関わりをもつ日本語教育分野においては、目の前の学習者や特定の研究課題だけに集中するのではなく、世界に目を向け、グローバルな視野で世界各地の日本語教育関係者と協働することのできる人材が強く求められています。近年、日本の若い世代が国内志向であることが指摘される中、日本語教育の分野で、積極的に若い世代に働きかけ、世界に目を向けてもらう努力を継続することは、社会的にも意義があると考えています。

本プログラムでは、特に海外の日本語教育に触れた経験の少ない研究者・実践者が、世界各地の現場の関係者と協働し、情報共有の促進と日本語教育の意義と課題に関する相互理解を深める活動を支援します。

テーマ例：

- ・ 海外の実践者・研究者と協力して開催準備を行い、ワークショップや研究会を共同開催する
- ・ 海外での学会等における発表、セミナー・ワークショップ等での研究や実践の交流もしくは企画・開催
- ・ オンラインを通じた日本語教育の授業実践について、国内と海外での現場の事例を共有し、課題解決の道を探る（海外の日本語教師や学習者への質問紙調査、インタビュー等）
- ・ 海外とオンラインでつなぎ、テーマに合わせた講師を招き、講演をもとにディスカッションをする

* 多様なアイデアによる共同活動を期待しています。過去の活動の報告が以下のページに掲載されていますので、計画の際の参考にしてください。また、ご不明な点は遠慮なく、国際連携委員会までお問い合わせください。

日本語教育グローバル人材奨励プログラムの実施

<http://www.nkg.or.jp/kokusai#renkei04>

助成対象・金額

助成対象：2022年7月1日から2023年3月31日の期間に実施・終了する共同活動

助成金額:対面*¹及び、対面とオンライン両方で行う場合の助成金額は、1人あたりアジア地域*²は上限10万円(グループは20万円)、その他の地域は上限20万円(グループは40万円)です。オンラインのみによる実施の場合は、個人・グループに関わらず、上限10万円です。申請書に適切かつ具体的な用途を明記してください。

- * 海外で行う対面の活動を指します。
- * アジア地域: アフガニスタン、インド、インドネシア、韓国、カンボジア、シンガポール、スリランカ、タイ、台湾、中国、ネパール、パキスタン、バングラデシュ、東ティモール、フィリピン、ブータン、ブルネイ、ベトナム、香港、マカオ、マレーシア、ミャンマー、モルディブ、モンゴル、ラオス

応募資格

以下の項目のすべてに該当する方、または以下の項目に構成員全員が該当するグループです。

- ・ 現在、日本語教育関連領域の研究・実践に取り組んでいる、またはそれを目指している
- ・ 日本在住である(在留資格「留学」の方は除く。ただし、グループの代表者ではなく一員として参加することは可)
- ・ 応募締め切り日時点で40歳以下である
- ・ 助成時に当該年度の年会費を納めている日本語教育学会員*である
 - * 本学会員以外も応募できます。ただし、本プログラム採択後、助成時までには本学会に入会することが助成条件となります。

助成条件

1) 活動の内容および成果の報告書提出

計画した活動終了後、すみやかに、活動報告(内部用)と経費明細を提出してください。また、活動の成果として本学会のウェブサイト掲載用に、活動過程の様子や得られた学びをまとめた原稿を執筆し、共同活動に関わる方(共同研究者、協力者など)に確認してもらった上で、本学会の国際連携委員会のフィードバックを経て、提出してください(活動終了後1ヶ月以内を目安)。特別な理由がなく報告の原稿を提出されない場合、助成金を全額返還していただくこともあります。なお、学会発表、論文投稿等、研究結果の発表を計画している場合は、二重投稿等のリスクへの配慮から、上記報告と同一の内容とならないように留意してください。

2) 日本語教育学会のホームページ上、および企画するイベントにおける活動報告

日本語教育学会 HP に掲載するため、本プログラムの助成で実施された活動の内容を紹介する動画*をpptで作成し、提出してください。そのための準備として、活動の際に動画・写真等の記録を残しておいてください。また、若手日本語教育研究者と共に学会活動を盛り上げていくために、日本語教育学会が企画するイベント(2023年3月予定)で活動の報告をしてください。これ以外にもプログラムの広報(春季大会での説明会等)への協力をお願いすることがあります。

- * 日本語教育グローバル人材奨励プログラムの実施

<http://www.nkg.or.jp/kokusai#renkei04>

3) 仲間をつくろう！

助成期間中、申請者同士がお互いに知り合ったり、話し合ったりする場を設けます。助成確定時、SNS のグループへ招待いたしますので、ご参加ください。

助成金の使途

- ・ 旅費：海外渡航費、各国内での移動交通費・宿泊費。宿泊と分離不可の食費も含まれます。
 - ・ 協力先との活動・研究調査にかかる委託費：アンケート翻訳費、文字起こしなど。
 - ・ 協力先との活動・研究調査にかかる物品費：IC レコーダー、ビデオカメラなど。ただし、機材購入の費用（ウェブ会議システムの有料アカウント取得なども含む）は、対面交流／オンライン交流に関わらず、3 万円を上限とする。
 - ・ 講演費、指導・助言費
- * オンラインの活動の場合は、旅費は使途に含まれません。
- * 申請者本人、もしくは指導教員への謝金等に使用することはできません。
- * 他の機関・団体等の助成金の規定に従い、本助成金を費目の一部に充当利用することも可能です。

倫理面への配慮

活動の計画、活動実施中、報告書作成は、研究倫理を十分に踏まえたうえで行なってください。日本語教育学会が開催した過去の研究倫理セミナーの資料が学会の HP 等で視聴可能ですので、参照してください。

- ・ 研究倫理セミナー (<http://www.nkg.or.jp/chosakenkyu>)
- ・ 研究倫理規定を知ろう！ (<https://www.youtube.com/user/NihongoKyoikuGakkai/videos>)

国際連携委員会としての協力

国際連携委員会として、採択者の活動に関わる広報・協力依頼を日本語教育グローバルネットワーク*の加盟団体に連絡することが可能です。各団体からの反応があることが約束されているわけではありませんが、イベントの広報などにご活用いただければ幸いです。

- * 日本語教育グローバルネットワーク
<http://gnforjle.wiki.fc2.com/>

応募受付期間

2022 年 4 月 1 日（金）～2022 年 5 月 31 日（火） 日本時間 23:59 必着

活動期間

2022 年 7 月 1 日（金）～2023 年 3 月 31 日（金）

- * 2023 年 3 月 31 日までにすべての活動（活動の内容・成果の報告書の提出を含む）を終了すること。

申請書類

- ・ 申請書(目的、スケジュール、協力機関名、活動概要など)
 - * 本学会のウェブサイトより規定の書式をダウンロードしてください。
<http://www.nkg.or.jp/kokusai#renkei04>
- ・ 活動計画の実行を保証するもの(協力機関承諾書、協力先とのメールの写し、調査概要など)

書類提出先

メールのタイトルを「グローバル人材申請書」とし、上記申請書類を添付の上、下記まで提出してください。

日本語教育学会 国際連携委員会 gn-nkg@nkg.or.jp

助成の採否

助成採否および金額は、本プログラムの審査委員会で申請書類を総合的に判断した上で決定し、6月下旬頃に申請者(グループの場合は代表者)全員に通知します。採択件数は10件を想定しています。

お問い合わせ: 日本語教育学会国際連携委員会事務局 gn-nkg@nkg.or.jp